

農業・食料における世界的問題はフードシステム

信州大学農学部 准教授 若林剛志

はじめに

世界の農業・食料における注目の話題は何か。それはフードシステムである。

2024年11月8日に、国連食糧農業機関(FAO)は毎年恒例の年報を刊行した(FAO(2024))。ここで取り上げられている問題は隠れたコストである。FAOは前年に続き、2年連続でこの問題を取り上げている。2年連続というFAOの訴えかけに込められたメッセージは、この問題が世界に共通する問題であり、解決すべき重要課題であるということ、この認識を共有し、人々の行動や生活様式の変化が必要であるということである。

同年報によれば、隠れたコストは、20年の購買力平価(PPP)ベースで約11.6兆米ドルである。しかも、これは世界規模で数値化可能な対象のみを推計したものであり、氷山の一角にすぎない。それでもこの額は、世界の農林水産業と農林水産物取引、食品製造と小売業を合わせた付加価値額(20年購買力平価ベース)に相当し、多額にのぼる。

1 フードシステム

フードシステムの定義を確認しておこう。農林水産省は国連フードシステムサミットによる定義を翻訳している。それは「食料システムとは、食料の生産、加工、輸送及び消費に関わる一連の活動のことを指し、本サミットの科学グループにおいては、『農業、林業または漁業、及び食品産業に由来する食品の生産、集約、加工、流通、消費および廃棄に関するすべての範囲の関係者及びそれらの相互に関連する付加価値活動、ならびにそれらが埋め込まれているより広い経済、社会及び自然環境を含むもの』(農林水産省HP https://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kanren_sesaku/FAO/fss.html)である。ここから、農業・食料と関わる領域は、広くフードシステムに内包されることがわかる。この

ことを考慮すると、農業・食料に関連する問題は総じてフードシステム概念に含まれ、かつフードシステムの問題ということになる。それほど概念が幅広くなっている。したがって、問題となっている隠れたコストは、まさしくフードシステムの問題なのである。

2 隠れたコスト

隠れたコストとは、市場に反映されない費用のことであり、それは環境、社会、健康の3つに分類される(第1表)。

例えば、環境のうち温室効果ガスの隠れたコストは、農業生産等が由来の温室効果ガスの排出による損失を金額換算したものであり、それによってもたらされる将来的な環境変化に伴うコストが計上されている。社会のうち貧困は、貧困線より低い生活を余儀なくされている人々が、貧困線以上の生活を営んでいたならば得られたであろう状況を想定し、貧困線との乖離をコストとして計上している。健康のうち加工品・添加物は、その摂取により非感染症疾患を患うことなく、通常の暮らしができたなら得られたであろう平均的な労働生産性をコスト計上している。

隠れたコストは、それを生み出した主体とコストを負担する主体が同一とは限らないという問題がある。地球環境が一例であるが、この場合の負担の主体には、現時点において意思決定の権利を持たない将来世代も含まれる。

3 隠れたコストの特徴

隠れたコストの推計は、156か国を対象とし、各国別に環境、社会および健康の隠れたコストを算出している。対象となった156か国が1人あたりのスーパーマーケットの数等、経済発展の状況と一定程度関係すると考えられる基準に基づき6つに類型化されている。その代表的傾向は次の通りである。

まず、6つの類型の中で、隠れたコストが

第1表 隠れたコストの推計値

(単位：十億米ドル)

	隠れたコスト	環境			社会		健康			
		温室効果ガス	土地利用変化	窒素	貧困	栄養不足	加工品・添加物	動物性ホールフード消費(加工度の低いもの)	植物性ホールフードの不足(加工していないもの)	有益な脂肪酸の不足
長引く危機(19か国)	374	116	20	24	122	10	6	2	59	14
伝統的(29か国)	2,159	232	21	151	334	37	198	18	913	256
拡大的(27か国)	1,134	178	43	141	35	6	175	27	412	117
多様化(25か国)	2,812	260	7	455	8	3	742	148	937	252
フォーマル化(31か国)	2,011	252	5	394	5	5	298	110	746	195
工業化(25か国)	3,149	224	141	287	1	0	790	365	1,156	185
世界全体(156か国)	11,629	1,263	237	1,452	505	61	2,202	668	4,222	1,019

資料 FAO(2024)

(注) 類型を概略的に述べると次のとおりである。「長引く危機：紛争等により不健康な食生活を余儀なくされている国」、「伝統的：昔ながらの食生活が中心の国」、「拡大的：経済成長による変化が著しい時期にある国」、「多様化：食の多様化が進みつつある国」、「フォーマル化：現代的フードシステムが確立しつつある国」、「工業化：先進国」

最も大きいのは「工業化」の3.1兆米ドルであり、全体に占める割合は27%である。しかしながら、各類型を構成する隠れたコストの内容はそれぞれ異なっている。例えば、「工業化」における最大の隠れたコストは、植物性ホールフード(加工されていない野菜をそのまま食べる等)の不足であり、その割合は36.7%であるが、「長引く危機」における最大の隠れたコストは貧困であり、その割合は32.7%である。また、温室効果ガスの数値を見ると、他の内訳と比べ類型間のバラつきが小さい。したがって、この隠れたコストは経済発展の水準等に左右されにくい、世界共通の問題として取り組むことが可能である。

社会の数値は「長引く危機」と「伝統的」で大きく、一方、健康の数値は「多様化」や「工業化」で大きい傾向がある。社会では栄養不足人口と経済発展の水準との相関が高く、そのことがこの類型別に示した表にも表れている。また、一定程度以上に食品の摂取が可能であっても、食生活の質によって非感染症疾患を引き起こすリスクがあり、それは経済発展している国々が含まれる類型で大きくなっている。

4 隠れたコスト解消へ向けて

隠れたコストは多岐にわたり、同年報は、我々人類は問題解決に対し常にイノベーションを期待するが、それだけでは不十分であると指摘している。解決に向けては多様な接近方法があり、官民、組織や個人を問わず誰もが取り組みの主体となることのできる。例えば、食品企業の行動変容、政府による成分表示と認証の義務化、そして消費者も購買行動によってフードシステムを変化させることができるとしている。

問題自体はとて大きく複雑である。しかしながら、各個人の小さな行動や働きかけが大きな変化を生み出す可能性を秘めている。2年連続のメッセージは、大きな成果をもたらすための小さな行動への着手を促すものと言えるのではなかろうか。

<参考文献>

- ・FAO(2024), *The State of Food and Agriculture 2024-Value-driven transformation of agrifood systems*, FAO.

(わかばやし たかし)